

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌

4

No. 218
Apr. 2016

特集：ひきこもり従事者研修報告！
「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所=生きチカラ～
基調講演：「ひきこもり支援からみた現代の子ども・若者」長岡秀貴氏

特集：ひきこもり支援従事者研修報告！

「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所＝生きチカラ～

基調講演：「ひきこもり支援からみた現代の子ども・若者」

基調講演講師：長岡 秀貴氏

(NPO 法人 侍学園スクオーラ・今人)



長野県上田市生まれ。高校教師を経て「自分の学校を作る」という目標のためショットバーや出版社を立ち上げ、開校資金を地道に集める。2004年、日本で一番小さな学校「NPO 法人 侍学園スクオーラ・今人」を開校。生きる力を共に育む

「共育」という理念が多くの賛同者を集め、現在も生徒たちへの自立を支援しながら、講演活動、悩みを抱える人々へのカウンセリングを行っている。2015年侍学園設立までを描いた自身の書籍「サムライ」が映画化され、全国主要都市の映画館で公開された。

ひきこもり・一ート・不登校の問題は昨今様々なメディアでも取り上げられ、大きな社会問題の一つといわれています。ひきこもり支援センターあすてっぷも岡山市から委託を受け、ひきこもりの方へのサポートを行っています。そこで平成二八年二月二八日、旧内山下小学校体育館にてあすなろ福祉会の企画による「ひきこもり支援従事者研修会」を開催いたしました。「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所＝生きチカラ～という研修テーマは、基調講演にお呼びした長岡先生の言葉をお借りしたものです。映画「サムライ」を観て長岡先生の存在を知り、長野県上田市尋ねて侍学園の生きるパワーに圧倒されました。誰でも自由に持つことができる「キボウ」、それを安心して発することができる「居場所」があれば、生きる力に繋がっていく……まずは支援者がキボウを信じる事、たとえ小さく質素な場所であっても、その人自身の存在が認められる場所を提供する事等、私たち支援従事者の在り方を再認識し、より充実した支援を行うためのヒントが得られれば、そんな思いで作りあげたひきこもり支援従事者研修会の報告です。基調講演の内容を紹介します。

「5250円」

いきなりみなさん質問です。
今いる大学生の人たちが抱えている一つの数字。「5250円」って大学生にとつてなんの数字だと思いますか？

一日のアルバイトで稼ぐ数字？

奨学金の月額借金返済額？

遊んでいるお金？

実は、大学によって違いますが九〇分一コマをこれだけの価値として受けとめているかどうかと

いうことです。
今はほとんどの人が大学に入学しています。ところが大学の新卒の就労率が七割超えていないんです。だいたい四年間一人暮らしをすると平均千二百万、それだけお金をかけるんだけど、大学卒業してすぐ働けるかというとそうではなく、一〇人のうち三人は就労出来ない現実があります。一人一人がこれだけのお金の価値を持つかどうかが重要です。つまり人が一生生きていくためのコスト計算なんですね。人が生きていく為のお金ってものは、その家族単位の経済的な尺度でいうとどれくらいあるのかということが、なかなか現在の日本人は考えていらないんじゃないかと思うんです。

絶望から再び生きようと思つたきっかけ

僕の夢は学校を設立するだけではありません。結構勘違いされているんですが、どんな生き方をするかを決めていた時から、やらねばならない事とやつてみたい事を頭に浮べて整理してきました。

一六歳の時左半身が麻痺し、ICUに入っていたことがあります。何とか命が繋がったんですが、医師から自足歩行は無理だと言われ、そこから絶望が始まつたんです。今も全国各地からいろんな相談があります。その人たちの中から絶望の言葉が飛び込んできます。「死にたいんですけど」「これから死のうと思います」とか。「死んだらダメだよ」というと「なんで死んだらいけないんですか」「自分の命なんだから始末をつけます」と。つらいこともあります。その言葉すべてが僕にとって絶望していないこともあります。

僕については『死にたい』というよりは人の役に立たない自分が絶望そのものでした。このまま生きていてもおやじやおふくろに迷惑をかけるだけだから早く終わりにしたいと思つていたんです。

絶望とは何も考えられない」とです。苦しい、悲しいという訴えは生きるという一つの方向であり、それをキヤツチさえすればその人たちはちゃんと足を前に出していけるんじゃないかと思つています。僕自身も絶望していたんですが、高校時の担任が病室に毎日お見舞いに来てくれて、「お前が必要だ」と言われたその一言で、生きようと思つていなかつた自分の命の窓にちょっと火が灯つたんです。この人の為に生きてみようと思いました。(二)で一度自分の命が終わつたけど、人様によつて人生をもう一度歩み始めたわけです。

この二回目の人生は人にもうつた命なので、僕の時間という財産は誰かの為に使い続けようと決めました。僕のスタートはたつたそれだけでした。

つまり、すべては人が幸せになる瞬間に触れていく生き方にしようと思っています。たつたそれだけの事。その中にこの職業が人の幸せに触れる職業と断定する事ではなく、世の中にはたくさんの人が幸せにふれていく瞬間、役割があるとぼくは思つています。

大切にしてきたもの

何を大切にしたきたかというと、一人で百歩ではなく百人で一步という事です。一人でやるの好きでないし、面白くもなんともない、手柄はどうでもいいし、評価されることに関して何も価値も感じません。チームで何かをやつてチームが賞賛されることにものすごく興奮があります。なのでみんなでどうしてもやりたい、百人で一步進めたい!これを心がけてやってきました。

僕の目標とみなさんの目標は違うし、目標と夢も違います。いや、寧ろ違つていいと思います。目標は一人のマンパワーで出来る事です。自分の努力を積み重ねれば実現出来るものです。一方で夢は自分の力だけでは無理です。誰かの力を借りて、誰かの力と力が融合して化学反応によって起る事実、それが『夢』です。自分の力だけではどうにもならないが、こういう風になつたらいいねと誰かと作つていく事が夢なのではないかと思います。

別に夢がかなえられる世の中がすばらしいと思つていません。夢を持つてない子どもたちが不幸だとも思いません。夢を持つてなくともどうやって幸せに生きていくかがぶれなければ、人々はちゃんと豊かな人生を送る事が出来るのではないかよ。それが自分が目標達成出来る人と出来ない人の違いです。その人間の幸福感の価値についても然りです。自分はどういうときに幸せなのか見えている人たちと見えていない人たちで、実は目標の達成というものは大きく変わつてきているのだと思います。

侍学園は七二五円で学校スタート！

一年目は利用者は来なかつたし、来ると思つてもいませんでした。開校後入学者はいたが、なかなか登校していません。お金も将来の補償もなかつたけど、不安がこれつぽつちもなく、毎日ワクワクしていました。今までなかつた幸せになる瞬間を自分たちが作っているんじゃない

かという実感だけははつきりとありました。当時、生徒は二人だけでした。それでも世の中で二人の生徒たちにとつて、僕たちは必要な人間だつたんです。それを実感していることが僕らの幸福感だつたし、これを続けていれば折れる事はないと思つていました。本当に貧乏だつたけど、心だけはめちゃくちゃ豊かでした。もちろん今も。

失業トップ二が一五歳から三九歳の若年層。(※失業トップは五五歳以上)さらに言えば一五歳から三九歳の若者二十人に一人が無業状態という現実があります。若者一人を放置するとどうなるのでしょうか?

若者の価値とは

二五歳の若者が無業状態で何の支援も受けずにそのまま六五歳まで社会保障を使って生きていくと、社会保障費は六千三百万かかると言われています。ところが二五歳で何らかの支援を受けて彼らが就労につき、納税者、消費者になるとその地域に還元されるお金はだいたい五千万を超えると言われています。つまり、若者支援とはそれだけ莫大な価値があるということです。最大で一億円を超えるかもしれません。放置すれば税金は、彼らが明日への命をつなげるために使われていくだけです。



うちの学校では去年四名を卒業させました。精神的、経済的自立の可能性がないと卒業要件にはなりません。つまり就労し納税者になることなんですね。四名の若者が卒業出来たといふと、市にとつては四億円の便益があり、価値があるということです。

特集：ひきこもり支援従事者研修

若年者支援にかけているのが年間数十万円としたら、数十万で何億円かの価値を生み出しているということです。もっとお金をかけてもいいんじゃないかなと思います。そのまま税収に繋がっていくわけですから。政策というものは本来そうあるべきだとうまく思っています。

行政委託は期限付きで常に不安定雇用を強いらされています。サポートステーション（以下「サポステ」）も管轄が変わり労働省の事業になります。ひきこもりとか無業、という言葉はまた廃止され、サポステで受けはいけないとなってしまいます。ちょっと背中を押せば就労できる子どもたちだけをメインにどんどんステージが変わっていくことになるでしょう。数字を上げないと委託金がもらえない、だけど数字を上げるには本当に自分たちが支援をしなければならない人ではなく、そうではない人たちに時間を使い、本当に時間が必要な人に対して自分たちの労力を割けないという苦しみをサポステの中では行っているんです。

旗をおろすのは簡単です。ただ、サポステという一つの看板の役割が地域に対して行っている事もかなり上がつてきています。うな事業なら僕は納得できると思っています。職員が理解し、この社会資源を残し支えていく、人材として自分はプロフェッショナルだと自覚を持つためにもそのロジカルな構造に関しては理解しておく必要があると思います。

何より大切なのは命がちゃんと続していく事、そして命が自らの手で失われていく世の中を今の子どもたちにバトンタッチしない事です。東北の震災から五年経ちましたが、あれでスイッチが入つたと思つて日本全国の命に対するポテンシャルもどんどん希薄化しています。そうではなくて、戦争も起きていないのにあの日一瞬に奪われた二万五千人以上の命。一方でこの国は自死という形で命のピリオドを打つている国です。戦争もしていません。災害も毎年起きています。しかし毎年三万人弱が自死という形で命を終えているわけですよ。それは幸せな国とは言えません。

そして我々は次の世代に責任があります。そういう世の中ではない世の中を、子どもたちに渡す必要があります。小さな動きでいいんです。百人の一步でかまわないので、人が幸福感を得られるようなことを、みなさ

短期・長期の両側面か
政治・政策的エアホケ
社会的投資として大き



支援の価値

例えば、五年ひき」もついた子たちが社会に出るには五年かかります。じゃないと嘘なんですよ。その子たちの五年間は、それくらい苦しんだんです。家族も本人も。だからその子たちにはそれくらいの時間が必要なんです。つまり支援者たちに、「早く成長させて」「なぜそんな時間がかかる」とやつてくるんだ」という感覚を持たないでいただきたいんです。支援の価値はいろいろあります。そういった小さな見えない支援の力タチ、これが貨幣換算されていない事が今の支援の団体が成長していくけない問題点なのかもしれません。

なので、どういう風に僕らはセーフティーネットを世の中に貼つていくのか、いろんな所で実はやつたりしています。

小さなワンアクション

事業所報告

今回の「ひきこもり支援従事者研修会第二部では、岡山市ひきこもり地域支援センターの事業報告、ひきこもり支援センターあすなろ「あすてつぶ」の活動報告の他、岡山県内ひきこもり・一ート・不登校支援をされたい三事業所にお越しいただき、事業所報告をいただきました。「一テイネーター」に川崎医療福祉大学の長崎先生をお迎えしました。

NPO法人 山村エンタープライズ

代表理事 藤井 裕也氏



以前ばる通信で
も紹介した美作
市にあるNPO法
人 山村エンター
ープライズでは、約

三年前より「地域
おこし」として岡
山県の北端に位置
する美作市の梶
並地区で、空き家
の改修や耕作放
棄地の再生などを
地域に住みこんで
行っている。

「」の春新しいプロジェクト「人おこし」をリリースし、
共同生活をしながら、誰でも必ず持っているリジリエン
ス（精神的回復力）を存分に發揮できるよう、寄り添
う支援を続けている。
詳しくは <http://hito.sanson.asia/> をご覧ください。



学校法人 おかやま希望学園

のびのび小学校校長 日名 育子氏

おかやま希望学園は平成七年にのびのび小学校、平成二年に希望中学校が開校した全国でも珍しい全寮制の学園。「生活すべてが学び」をモットーに、教職員も寝食を共にしながら生活力と学力の向上を目指している。この学園を訪れる子どもたちは、地域の学校になじみにくかつたり、不登校になつたりと、「生きづらさ」を抱えることが多い。学校の教職員はもちろん、吉備中央町の地域の方々に支えられ、また異年齢集団での生活を通して、社会性の育成に力を入れている。

詳しく述べ <http://www.kibou-gakuen.jp/> をご覧ください。

フリースペース あかね

代表 中山 遼氏

現在様々な要因で社会とつながっておらず、無支援状態の子ども・若者たちとその家族の居場所として大きな役割を担っているのが、岡山市北区にあるフリースペースあかねである。安心できる場所、どう過すかは自分で選択し、その場にいるだけでもオッケー——ルールは「自分も相手も傷つけない」ということだけ。個々が目指す場所への中間地点として、学校とは違う学習の場所として、お母さんたちが交流する憩の場として、フリースペースあかねの存在は大きい。

午前の長岡先生の基調講演に始まり、岡山市と受託事業「あすてっぷ」のひきもり支援の報告、岡山県内三事業所の報告と盛りだくさんの内容を聽講した後だけに、皆さん熱い想いをぶつけ合っている感じでした。「この想いが冷めないよう、これから岡山のひきもり・ニート・不登校ながりも大切にして、日々取り組んでいきたい」と思いました。





ワークシヨツプ



アンケートから感想紹介



研修会の第三部では「ひき」もり支援が目指す「未来」へ明るいおかやまを創造しようとしていた。テーマでワークショップを行いました。1グループ5～6人で①支援している中で抱えている問題点を提起②問題点をリフレーミング（視点を変える）、③明日から使えるアイデアを出し合つ④未来のひき」もり支援を想像する、という流れでポスト잇にて次々と意見を書いて張り出していきました。

- 基調講演がとても貴重でありがとうございました。自分自身の生き方、幸せの瞬間みれる場に感銘うけました。自分の生き方を考えなおすしてみよう、ふり返ろうと思いました。
 - ひきこもり支援についてあまり就労につながる支援を知らなかつたので勉強になりました。ありがとうございました。
 - 人との繋がりの素晴らしさを改めて知れました。
 - 午後のみでしたが、とても充実した時間でした。質疑応答の時間がもう少しあつたらもっと良かつたです。「リフレーミング」発想の転換が出来て、とても面白くこれからも参考にさせていただきます。

最後になりましたが、今回の研修会を「一テイネー
トしていただいた長崎先生をはじめ、ワークショッピフ
アシリテーターの皆様、会場設営等お手伝いいただい
たボランティアスタッフの皆様方に厚く御礼申し上
げます。

今月のきらり



やりたいことがあれば、
苦しい事でも続けられるよ。

さえき
佐伯 秀典 さん

ジョブサポートセンターあすなろの利用を経て清掃の仕事に就かれ、ご自分のペースで生活されている佐伯さん。そんな彼の今までのこと、これから思いを語ってもらった。

幼い頃

私は生まれも育ちも関東人です。なぜ、いま岡山に居るのか…については、のちほど話せたらと思います。

一人っ子だった私にとって、一番身近な影響のある大人は母親でした。いまもそれは変わりません。

小学生の時は、家庭の事情などで転校を三度も経験しました。幸いにも私は人見知りもなく、当時熱中していたサッカーのおかげもあり、いつも仲間と早くから打ち解けられる子どもでした。それも、早くに両親が離婚し、母親の手一つで育ててもらつて、かぎつ子少年ながらも母親の働く姿を「かで素晴らしい」と感じながらすくすく伸び伸びと育つていたからかもしれません。

私と美容との出会い

母は化粧品会社の仕事をしながら、私を育ててくれました。仕事が休みの日には、母親の美容院に一緒にいて行き、母がキレイになつていく様子を身近に感じる事や、そこで働く人たちを眺めることが私の樂しみの一つでした。また、当時流行っていた芸能人の影響もあり（当時は吉川晃司やBOWYなどビジュアル系の歌手が一世を風靡していました）お化粧などにも強い関心を持っていました。それと同時に、人目を引くようなファッショニヨンや自分の個性を活かせる服装にも強く興味を持ち始めました。小学校時代は遊びに明け暮れた生活でしたが、中学・高校となるにつれ、

美容師への道

高校後の進路は迷いもなく「美容師の道」でした。ただ、卒業後すぐの就職先では、遊びにも夢中になり長続きしませんでした。しかし、やはり「かわいい」と自分が思える仕事は憧れの美容師のみ。そこへの道は揺らめかず、再度就職先を探します。当時「カリスマ美容師」という言葉が世の中に流出してきた頃でした。「田舎すならやつぱり一流の集まるところだ!」と「美容師のメッカ」であった「原宿」の美容院を履歴書を持って雇ってくれるお店を探し回ります。三〇社くらい回った頃でしょうか、奇跡的にも自分を雇ってくれる美容院に出会いました。

そこでの仕事は、楽なものでは決してありませんでした。流行の中心であり、尚且つその更に最先端を行くような「原宿」でしたから、毎日が格闘でした。一流の美容師をめざし地方から集まつてくる若者たちに交じつて私も本物になる為に日夜カラーやカット、パーマなどの修業を積んでいました。楽ではありませんでしたが、そこでのチームプレイや「本物」や「かわいい」を目指す仲間の存在についても励まされ力をもつ

徐々に自分の「好き」や「かわいい」を意識するような生活に繋がつて行つたように思います。当時、特に覚えてるのは中学校時代にお世話になつていた美容院へ「」でアルバイトさせて下さるー」と直談判し、お流し(簡単なシャンプー)などをさせてもらつた」とです。これが、のちの自分自身の「美容の世界」へのあくまで挑戦への一步となつていきます。

日々でした。

突然、辞めてしまつた美容師…しかし

しかし、一流美容師の道も中々すぐにかなうものではありませんでした。日々の中で不意に辞めたくなつたのです。当時、何が嫌とかではなくけれど職場を辞めました。そこからは今までの美容師への道が一転し、その口暮らしのような生活が始まります。新聞広告に掲載されているようなアルバイト、特に好きでない仕事に手を出してみたり…(何がやりたいのだらう、「こんなのでいいのか…」)と思いながらも月日がだらだらと流れていきました。ただ、いつも傍らには「美容師への道」があつたのかもしれません。なぜか、いつも手にしていたのは美容院の求人でした。気持ちを新たに何度も美容師への道を再び志し始めた頃、自分自身の違和感にも気づき始めてしまいました。

受診、今のわたしにつながる出会い

いつも漠然とした不安が自分をつきまとつようになりました。その不安がただの不安ではおさまりきらず、大きな不安へと育つていくのです。たまらずに、私は当時住んでいた地で初めて「メンタルクリニック」を受診しました。主治医には「一週間、何もしないで過ごして」「こんなさ」と言われた」とを今でもよく覚えています。その頃の私は、常に何かにかきたてられ、追われるよう何かをし続けていたのかもしれません。不安を軽減する薬も処方されました。しかし、すぐに症状が治まる事もありませんでした。この頃から

「漠然とした不安」と付き合い始める」とになるのです。しかし、幸いにも私には、その「漠然とした不安」を自分と共に眺めてくれるパートナーがいました。それが今も私自身を傍らで応援してくれる妻の存在でした。

一緒に時間を共有してくれた妻の存在

妻とは美容師時代からの仲間でした。当時、何をやつても上手くいかない、なかなか続かなかつた私を仲間の頃から励ますでもなく、力づけるでもなく、ただただ、そばで一緒にその時間を共有してくれていたのが彼女でした。そんな「ただそばにいる」「どんな自分が丸」と受け止めてくれる」彼女の存在そのものに救われていました。またそんな妻の存在と同じくらい、私に転機をもたらしてくれたのはある人の言葉でした。美容師の道を目指すも、なかなかうまく行かない私はある先輩に泣きながら訴えました。その方は

「原宿で美容師するだけが人生じゃないよ」と書いてくれたのです。その人は私の尊敬する人の一人でした。その言葉に道が開け、人生にもう一度光が差してきましたよ的な気がした」とを今でも鮮明に覚えています。

新たな道

幼いころから、母との時間の中でも特に、母の趣味でもあつた「骨董市」へ一緒に行く事は何よりの楽しみでした。古道具を眺めたり、とつておきの骨董品に出会えた時はなんともせず悦に浸つていました。そんな趣味だった「古道具鑑賞」を生業としてみようと思



えた瞬間でした。妻の美容院の経営と同時に、私も古道具を扱うお店の店主として新たな道をスタートさせることになりました。「usé(ユゼ:古くないもの)(使い古された)」と云う名前のお店でした。自分の好きな事を生業とする。「こんなに素晴らしい事はありません。自分で見つけてきた、とておきの古道具を「いいねー」と買ひに下さるお客様、特に当時デザイナーさんとして名の知れた方々と東京で仕事をさせてもらひ、その方々にも好評をいただけた」とは何よりの喜びや自信になりました。

岡山での慣れない日々、仕事が続かない

しかし、好きな事を生業にする事への難しさも痛感しました。数年間東京での好きな古道具店を経営するも継続のむずかしさを感じていました。一度生計を立て直すためにもと夫婦で話し合った結果、妻の実家のある岡山の地でやり直す事にします。

初めての地、慣れない方言、大都会で流行の最先端で暮らししていた私について、岡山での日々は苦痛以

外のなにものでもありませんでした。頼れるものは妻だけ。そんな中で、精神的にも不安を抱えた自分自身が心機一転働き始めるにもなかなか困難なものがありました。自分で仕事を見つけるも続かず、見つけた事さえ嫌になり「これは環境が変わった事が悪いのだ」と言い訳をする自分と「なんで自分は仕事も続けられないのだろう」と自分自身を責め続ける、そんな日々が続きました。そんな時、妻の知り合いからあすなろ福祉会を紹介されるのです。

「あすなろ」との出会い

「なんなんだ、ー」はーー」というのが第一印象。自分自身の在り方を根底から覆す、そんな場所でした。まず、「人を頼つてもいいのだ」とこいつ」と。今までは、就職も転職も自分でもがきながらやってきました。結果として、続かず苦しむ」とになる訳ですが…」」では一緒に「悩んでくれる」「苦くる」「」とをお願いできる。はじめは、何を自分が頑張って、何を頼ればいいのかよく分かりませんでした。しかし、担当スタッフとの間で共に試行錯誤を繰り返しながら少しずつ自分の頑張りど」ふと、サポートを受けたい」となど自分の「今の姿」に合った働き方を見出していく事が出来始めました。また、これは歳を重ねたせいかもしませんが、以前は「うねばならない」と自分に対して厳しかったのですが、出来ない自分や不安を抱える自分も含めて「ありのままの自分」を呑み込めるようになつた」とは私にとって大きな事かもしれません。これは、「」お世話になっているクリエイツのカウンセリング

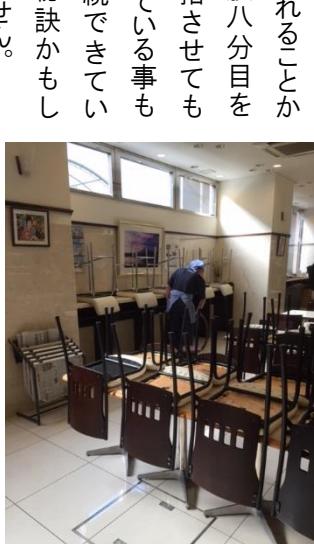
の先生や、主治医の先生のお蔭だと感じています。

また、やはり大きいのが妻の存在です。私の中のお天気が雨でも晴れでも、時に嵐であつたとしても…そんな私の気分の変動にも関わらず、そこに居続けてくれている」とが何よりの支えになっています。

そして今、これから

現在、あすなろを通じて出会った職場で週三日の仕事を始めました。清掃のお仕事です。ー」では、なによりも自分のペースで黙々と仕事をさせてもらえる

ことが私の安心に繋がっています。以前の私だと、もう少しやれるんじゃないと、「余力を残さず全力でー」なんて思う」」と多かつたのですが、今は少しすつ慣れる」とから腹八分目を田指させても

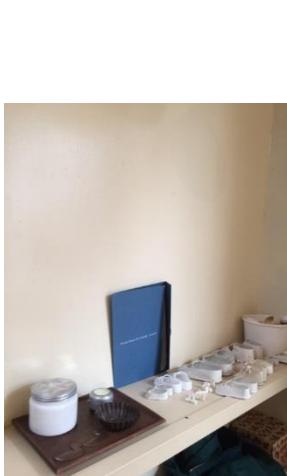


清掃の仕事をする佐伯さん

古道具好きな人との語らい、そして時々のお酒の時間が日々のささやかな私の楽しみとなっています。ストイックな性格だけに、またやり始めるときつと体調を崩すでしょう。それも今の自分だからこそ気づける感覚かも知れません。

「やりた」とがあれば、苦しい事でも続けられるよ」そう思います。皆さんに言える事はそんな」とくついででしょうか。しかし、私もまだ今もそれを探し続けているような気もするけど…

「ただ息してるだけじゃ、人間じゃないわよ」が母の口癖。この言葉にいつも立ち返り、未だにその言葉の意味を模索しているのが自分かも知れませんね。



レイアウトした物たち



時々美容師になる佐伯さん

投稿コーナー



病気になって
10年目くらいに
図書館に通うよう
になった

絵本を半年で
700冊ほど読んだ

その後自助
ヘルプ本や
入門書などを読み

心の波が落ち
つくのを助けて
くれたと思って
いる



『春爛漫』
英聖さん作



『デスペラード』

宮浦 蘭瑞

今、PAハウスでパソコンに向かっている。私の働いているライバーハウスでは少し昔の曲をメインにステージをやっている。毎夜毎夜聞く曲の中で、私が一番好きなのは「デスペラード」だ。

「デスペラード」は少し淋しい感じのする曲調で、静かに切なく歌われる。内容は邦訳「ならず者」の通りだが、その『ならず者』とはギャンブルに明け暮れるような『ならず者』ではない。歌詞からは、現代社会に疲れ、少し精神がまいってしまった青年のことを歌っているように受け取れた。

イーグルスのこの曲が気になつた私は、「デスペラード」について調べてみた。どうやら舞台はアメリカ西部のどこの牧場で、主人公は孤独を愛する中年の男。フェンスに腰掛け遠くを見つめたり、トランプ遊びを

すれば良い手札を持っているにも拘わらず敢えて使おうとしなかつたりするような、諦念と共に生きている男。もう感情も無くなりかけた、愛することも愛されることも忘れてしまった寂しい男。そんな男に語りかけているのがこの歌であると書かれてあった。

私が初めに惹かれたのは、曲調だった。歌詞も知らなかつたし、誰が歌っているのかも知らなかつた。でも何かを感じた。それは根底にある「淋しさ」だ。それでもそれと同時にまた希望を感じたのも事実だ。サウダージのような言葉に表せない淋しい感じと希望のかけら。その両方を内包した曲として私に認識された「デスペラード」。

(次回につづく)

だがこの英雄は、本当に英雄なのであろうか？劇中クリスは「とある」とにアメリカの正義を持ち出す。そして悪いのはアルカイダであり、自分はこの敵を倒すのだ、と。クリスの頭の中には当然のことく、アメリカ同時多発テロの印象があつた。これはアメリカに多い人が、その報復を求めたのだ。

しかし、その報復というのは、果たして許されるべきことなのだろうか？どうしてもこのことを筆者は考えてしまう。クリスは退役後、自分の家族と幸せに暮らす。だがこの映画はギリシア悲劇なのである。決してその幸せは長くは続かないのだ。そこにギリシア悲劇同様、神の定めた運命を見るのである。

感想・投稿 募集中！
詩、俳句、絵、ジャンル不問です。郵便、メール fax 等でご投稿下さい♪

映画『アメリカン・スナイパー』を観た。二〇一四年のアメリカ映画で、監督はクリント・イーストウッド。主演はブラッドリー・クーパー。

この映画はつまるところ、アメリカ映画の姿を借りたギリシア悲劇だと思つ。クリス・カイルという男がネイビー・シールズに入り、訓練を受け、やがては自分が派遣された、アルカイダが暗躍するイラクで、退役するまで一六〇人の敵を倒すほどの「伝説の」狙撃手（スナイパー）となるまでを描く。それはギリシア悲劇に登場する英雄たちの姿と重なる。クリスはまさにアメリカの英雄であった。

藤井健喜

古楽日和 こがくひより

第四八回

あすなる家族の会交流会

平成二八年三月一九日（土）、あすなる本部（中区浜）にて「第四八回あすなる家族の会交流会」を行いました。初めて参加された方も含め、一三名の方が参加されました。自己紹介では、「最近の良かった事・楽しい事」として、「子供が最近就職した！」や、「自宅でヨーグルト作り♥」、「飲んでカラオケ☆」などあり、和やかに自己紹介が行われました。

家族の方からあげて頂いたテーマでは、「親亡き後子供の居場所について、それぞれの家族の方たちがどのように感じ、考えているのか」を、参加者の方々で話し合いました。

「人と関わることを避け、引き「」もり状態。安心して過ごせる居場所を見つけてあげたい」「親亡き後についてはどの親も考えている。本人が繋がれる人や場所を少しでも多く作っておく事が大切なのは」「少しでも親が長生きする事。百歳まで生きるつもり！」等、様々な考え方意見がござりました。

親亡き後でも本人が何かあれば連絡できる場所・話せる人・行ける場所、繋がりの大切さを参加者の多くの方が感じているようでした。

今回の交流会は平成二七年度最後のあすなる家族の会交流会でした。一年間役員をして下さった役員の方に感謝し、来年度にも繋げていこうと、う思いと共に閉会となりました。



あすなる福祉会

お花見開催！

四月一日（金）朝から雨がパラパラ降っていましたが、護国神社でお花見を決行しました。雨天の中でしたが約五〇名の参加者が来てくれ、「交流」をテーマにスタートしました。

催し物としては、新人スタッフ、新人メンバーの紹介、クイズ、じゃんけん電車では雨も止み、グレープを作り、グレープとに交流を深めました。初めましての方も多かつたと思いますが、いろんなグレープから笑顔や笑い声が聞こえていました。

みんなで準備したバーベキューやおにぎり、のり巻きもほとんどなくなり、お腹も心も満腹になつたのではないかと思います。

今回は雨の中のお花見だった為、自分たちでテントを設営したので片付けも大変だったと思いますが、みんなで作りみんなで片付けてと手作り感満載のお花見になつたと思います。

陶芸は初めて、というお客様がほとんどでしたが、それそれが思ひ思いの形を作り、クジラ・犬・火山・蛇（！）などなど個性豊かな作品が机の上に並びました！

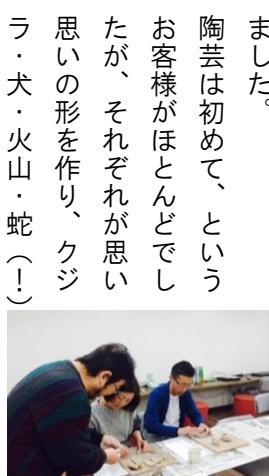


お越しいただいた皆様、ありがとうございました♪街ゼミ以外でも、ものづくりArt工房ではこうした陶芸体験をすることができますので、お気軽にお問合せ下さい。（TEL）〇八六一〇一一四三三

街ゼミでオリジナル箸置きを作ろう！

あすなる福祉会のある表町商店街

では、年に二回「街ゼミ」というお店が講師となつて専門的な知識や情報をお客様に提供するユニークなゼミがあります。今回は、磁器を使って箸置きを制作して頂きました！親子や夫婦・友人など多くの方が複数で来所され、計十人の方にお越しいただきました。



たまりばボーリング大会



三月二〇日(日)に一三時半より、たまりばボーリング大会が開催されました。たまりばとは、「働く障害者のための交流拠点事業」として週二回木・日曜日にばかり・おかやまの交流スペースを使って、働き続けることで出てくる悩みを語り合ったり、仲間をみつけることを目的に市から委託を受け活動しています。

今回のボーリング大会は、以前のたまりばメンバーアンケートの中でやってみたいイベント投票において、人気の多かったイベントでした。ボーリング当日は、一名の参加がありました。

スポーツを通じ、みんなで盛り上がり、交流ができるきっかけとなつたのではないかと想ひます。

たまりばでは、今回のイベントのようにメンバーのやつてみたい、挑戦したいという希望が少しでも実現できるきっかけに繋がればと思っています。

★四月のたまりばの開所日は一〇日

(日)、一四(木)、一七日(日)、二〇日(水)、二四日(日)、二八日(木)です。木曜は一七時～一九時半、日曜は一四時～一七時。

三月二〇日(日)に一三時半より、たまりばボーリング大会が開催されました。たまりばとは、「働く障害者のための交流拠点事業」として週二回木・日曜日にばかり・おかやまの交流スペースを使って、働き続けることで出てくる悩みを語り合ったり、仲間をみつけることを目的に市から委託を受け活動しています。

今回のボーリング大会は、以前のたまりばメンバーアンケートの中でやってみたいイベント投票において、人気の多かったイベントでした。ボーリング当日は、一名の参加がありました。

スポーツを通じ、みんなで盛り上がり、交流ができるきっかけとなつたのではないかと想ひます。

たまりばでは、今回のイベントのようにメンバーのやつてみたい、挑戦したいという希望が少しでも実現できるきっかけに繋がればと思っています。

★四月のたまりばの開所日は一〇日

三月二〇日(火)にジョブメンバー五人で倉敷美観地区を散策してきました！この日は、快晴ということもあり、絶対にいい天気でした。美観地区は、春のぽかぽかした美観地区を心地よく散策することができました。中には、倉敷美観地区を初めて行つた方もいたようですが、自分自身を見つめる自信が無かつたり消極的な毎日をおく事もまた、誰も責める事が出来ないマイペースだと思いま

す。両方ともにマイペース、今の自分に合つた安全速度で日々を過ごしたいですね。

また「この場に限らず、他人に配慮して欲しい事(知つていて欲しい事)」として今回出た意見は『K-Yだったり、言葉の裏側が分からないので、何か変な風に感じたら質問して下さい』『頭の回転がおかしくて、変に解釈したら』『めんなさい』『耳が聴こえたり、聴こえなかったりする。高声で早口は聴こえづらい。聴こえる範囲で参加させてもらつたら』『一方的に話しかけられるのは苦手』『物が持てなかつたり触れなかつたりする』『目が悪いので近づいてもいいですか?』でした。

四月から障害者差別解消法が始まりましたが、まずは各々が辛い事を正直に打ち明ける事から差別解消への理解が深まると思うのですが、皆さんはどう御考えになるでしょうか?

◆次回予定◆◆◆◆◆◆◆◆

次回は5月になります。

多くの方の御参加を心からお

待ちしています。見学・途中

参加も歓迎です！

*他の参加者を批判したり改善を強要しない事を第一のルールにしています。

美観地区散策ツアーアー！

ジョブサポート

センターあすなるには『メンバー企画』

という、利用者みん

なでやりたいプログ

ラムを企画・宣伝するプログラムがあり

ます。これは、交流のきっかけや、皆と

企画を行い、実現をすることで自信につ

ながることも目的にもしています。今回

は三月二〇日(火)にジョブメンバー五

人で倉敷美観地区を散策してきました！

この日は、快晴ということもあり、絶

対にいい天気でした。美観地区は、春のぽかぽかした美観地区を心地よく散

策することができました。中には、倉敷

美観地区を初めて行つた方もいたよう

ですが、参加メンバーからは、「また行きた

い！」、「みんなで行くと楽しいね」といつ

た声も聞かれました。いつもお互い違

う一面も見れた！

また楽しい『メンバー企画』を実施で



三月『癒し場』開催しました♪

（発達障害や対人関係が苦手の人の癒し場）

三月二二日(火)運営者を入れて九名の参加で『癒し場』を開催しました。皆さんから出して頂き、話し合つたテーマは、自分の生き辛さについてどうやって知識を得ていますか？得ていませんか？それは何故ですか？』『あすなるを利用して良かった』と、これからんな事したい！あつたらいな！』相手との距離感をどうとれればいいのか悩んでいます。話を聴きすぎてしまう。断れなくて、しんどくなる』『辛かつた経験から教えら

れたいありますか？』の四つでした。

今回は自分自身を見つめることができるようになった方の参加が多く、前向きな話が出来て良かつたなと思います。一方で、自分自身を見つめる自信が無かつたり消極的な毎日をおく事もまた、誰も責める事が出来ないマイペースだと思います。両方ともにマイペース、今の自分に合つた安全速度で日々を過ごしたいですね。

また「この場に限らず、他人に配慮して欲しい事(知つていて欲しい事)」として今回出た意見は『K-Yだったり、言葉の裏側が分からないので、何か変な風に感じたら質問して下さい』『頭の回転がおかしくて、変に解釈したら』『めんなさい』『耳が聴こえたり、聴こえなかったりする。高声で早口は聴こえづらい。聴こえる範囲で参加させてもらつたら』『一方的に話しかけられるのは苦手』『物が持てなかつたり触れなかつたりする』『目が悪いので近づいてもいいですか?』でした。

四月から障害者差別解消法が始まりましたが、まずは各々が辛い事を正直に打ち明ける事から差別解消への理解が深まると思うのですが、皆さんはどう御考えになるでしょう？



INFORMATION

4月の予定

4月		
10	日	
11	月	
12	火	PC講座10時 つどい13時30分 卓球サークル13時あすなろ出発 13時30分現地集合
13	水	
14	木	
15	金	図書館サークル10時 女子会14時 ソフトボール13時
16	土	眼鏡っこサークル13時30分
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	4月21日(木)～23日(土)は スタッフ研修のため、あすなろ福祉会は 閉所になります。よろしくお願ひします。
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	PC講座10時 卓球サークル13時あすなろ出発 13時30分現地集合
27	水	
28	木	お菓子づくりサークル13時
29	金	昭和の日
30	土	
5月		
1	日	
2	月	
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	ソフトボール13時
7	土	
8	日	

※プログラム・サークル活動に参加希望の方はご連絡を
よろしくお願ひします。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行:社会福祉法人あすなろ福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町3-7-27
- 編集:ぱる・おかやま
- TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713
- E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp
- ホームページ:<http://asunaro-fuku.jp/>

15日(金)

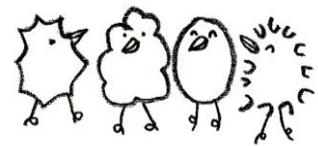
●○○ソフトボール○○●

みんなで汗を流そう！！

時間 13時～15時

場所 百間川グラウンド

※送迎希望の方はお知らせください。



めがね 眼鏡っこ Art of Asunaro

漫画・小説・絵・詩などを書くこと

読むのが好きな人の集い★

自分が書いたり、描いたりしたものを誰かに見てもらいたい人や、見たり読んだりするのが好きだから作品を是非見たいという人集まれ～♪もちろん眼鏡なくてもOK！

時間 13時30分～

場所 ジョブサポートセンターあすなろ

22日(火) * 女子会 *

言いっぱなし、聞きっぱなしの女子トークを楽しもう♪

みんなでお菓子を持ち寄って、おやつタイムを過ごそう☆

時間 13時～

場所 ジョブサポートセンターあすなろ

28日(水) おいしいおやつの時間 お菓子づくりサークル

ぱるカフェで決めたメニューをみんなで調理して、お昼ご飯として食べよう！！(^_^♪

時間 13時～15時

場所 ぱるおかやま

参加費 200円程度(参加人数によって変動有)

<4月のピア電話相談日>

	火	水	木	金	土
12	13	14	15	16	
AM	○	○	○	○	
PM	○	休	○	休	○
19	20	21	22	23	
AM	○	○	○	○	
PM	休	休	○	休	○
26	27	28	29	30	
AM	○	休	休	休	○
PM	○	休	○	休	○
3	4	5	6	7	
AM	休	休	休		
PM	休	休	休		

ピア電話相談とは
同じような病気の
経験をした
ピサポーター
グループクローバー
が、お電話であなたの
お悩みをお聞きしてい
ます。
ピア
電話相談
(086)
201-1719

お気軽におかけ下さい！

